

# 誤嚥性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者(個人・団体)に愛と光を!!

## 連載 119 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長  
橋本 満義 (67歳・内科)

在宅医療での患者さんとかかりつけ医の関係が10数年と長くなれば、  
お互いの人生観に影響を与え、過去・現在・未来へとタイムスリップ。

そして、異次元への入り口(ブラックボックス)が開いたのです。

私の目の前のソファに、在宅酸素(自宅で酸素吸入をする機器)を装着したT.Tさん(87



歳、女性、心不全、呼吸不全、腰椎圧迫骨折後歩行障害)が、しんどそうに座っていました。屋内で酸素を吸いながら移動できるように、そのチューブは長いのです。

私が「T.Tさんって、確かお能をなさっていましたね」と尋ねると、「そうよ。観世流で、あなたのお父さまが私のお師匠様よ」と答えました。さらに「松山って、観世流よりも喜多流が盛んですよね。お能といえば、全国で観世流が約7割、喜多流が約2割、ほかに金剛流などが約1割です」と話し続けると、彼女の顔に正気がみな

ざり、楽しく幸せそうな笑顔になりました。

T.Tさんの初診から現在まで10数年経ち、私も67歳となりました。私は、このT.Tさんと交わした“お能談義”を通して、故郷である宇和島の実家の亡き父と母の顔や、子どものころ山や川で遊んだ思い出が走馬灯のように浮かんできて、一瞬戸惑いながらも懐かしさに浸ってしまったのです。

これって、いわゆる異次元へタイムスリップしたかのように、時空を超えて過去へと瞬間移動したのでしょうか。おそらくT.Tさんも同様だったのでしょうか。幸せそうな顔になり、思い出にふけていました。

T.Tさんは、ずっと自宅療養を希望されていま

す。ですが、独居ですし、重度の合併症もあるので、今後も生活管理指導をしながら、場合によっては施設入所も選択肢のひとつとして考えなければならぬ日もあるでしょう。そんなことを思いながら、私は次の訪問先へと向かうのでした。

患者さんとかかりつけ医は、その信頼感で結ばれていますが、友人や家族ではけっしてありません。一線を越えてはいけません。診療に差し支える過度な同情や誤解を与える行動はタブーとされています。

しかし、動物行動学的には相互に影響しあうものでもあります。だからこそ、冷静な判断ができるように、介護医療スタッフと常に相談しあうことの必要性が大なのです。

## ～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)現場の人達を救命救急士として教育する「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



## 外来診療(かかりつけ医) 総合内科・漢方診療科

要予約

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 19名  
内科・外科専門医 16名  
(国立がんセンター勤務歴有3名)  
精神科専門医 1名  
麻酔科専門医 2名  
(ペインクリニック科)  
末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!



(医)東西会イメージキャラクター「イ子ゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イ子ゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

H.27 大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関  
H.29 関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関(予定)

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所  
(医)東西会 千舟町クリニック  
松山市千舟町6-4-9  
Tel:089-933-3788  
http://www.touzaiikai.jp/